



信州駅伝だより

信州駅伝サポート会
会報 第3号

◆発行日 令和2年10月30日◆発行所 信州駅伝サポート会
◆発行人 伊藤 利博 ◆編集人 町田 暁世・丸山 健志
◆URL : <http://members.stvnet.home.ne.jp/shinsyu.ekiden.sapoto/>
◆E-mail : Shinsyuu.ekiden.sapoto@gmail.com

NPO法人信州駅伝サポート会 賛助会員ご加入の御礼



信州駅伝サポート会
理事長
伊藤利博

10月に入り、いよいよ本格的な駅伝シーズン開幕と言うのが毎年続いてきた習わしでありましたが、今年は新型コロナウイルス感染症により各地の、マラソン、駅伝大会が中止となりました。NPO法人信州駅伝サポート会では最も力を入れて来た都道府県対抗男女駅伝も9月の初めに、日本陸連から中止の発表があり、選手はもとより、我々関係する者にとりまして、大変残念に思っております。

令和元年度は、賛助会員個人193名 団体37社、合計230名の皆様方よりご協力を賜りました。心より御礼申し上げます。この貴重な資金を、長野県下の小学生、中学生、高校生、社会人の長距離選手育成の為に使わせて頂きました。

お陰様で、昨年暮れから今年の年初めに掛けて行われた全国高校駅伝、都道府県対抗男女駅伝では、信州駅伝チームが大活躍でした。特に都道府県対抗駅伝では男子が8回目の優勝で、天皇杯を獲得する事が出来ました。女子は、過去最高の4位に入賞する事が出来ました。高校駅伝では、佐久長聖高校が3位、長野東高校が9位と立派な成績を収めてくれました。

新型コロナウイルス感染症により、多くの大会は中止になっておりますが、来年に向けて選手強化は引き続けていかなければなりません。コロナ禍の中で、企業関係者や、会員の皆様方におかれましては、何かと影響が多いかと思いますが、さらなるご協力の程よろしくごお願い申し上げます。

来年こそは、新型コロナウイルス感染症に打ち勝って、大会が開催出来る事を皆様と共に願っております。

信州駅伝サポート会激励訪問 佐久長聖高校・長野東高校へ

信州駅伝サポート会 副理事長 浦野 義忠

賛助会員の皆様方のおかげをもちまして、昨年度「信州駅伝サポート会」が特定非営利活動法人として正式に認証されました。

信州駅伝サポート会では、会員の皆様方のご支援・ご協力を頂きまして、全国の各種駅伝で活躍するチーム、駅伝選手、及びその指導者等に対して支援する事業を行っております。

昨年に引き続きまして7月30日、信州駅伝サポート会は伊藤利博理事長と共に佐久長聖高校・長野東高校を訪問し、激励と激励金を贈呈してまいりました。

佐久長聖高校では、佐藤 康学校長と高見澤 勝監督が対応。佐久長聖高校は全国高校駅伝2度の優勝、長野県高校駅伝では22連覇と輝かしい実績を残しています。長野東高校では、小林武広学校長、川上教頭、横打史雄監督が対応してくれました。長野東高校は全国高校駅伝2度の準優勝、長野県高校駅伝13連覇と公立高校として素晴らしい成績を残しています。

全国都道府県対抗男子駅伝で全国最多の8度目の優勝を令和2年1月19日に成し遂げました。1月12日開催の全国女子駅伝では、一時は先頭を走りトップで襷を渡し、手に汗握る熾烈なレースを展開し長野県記録を大幅に更新、3位東京都と1秒差。チーム過去最高順位の4位と記憶に鮮明に残っている方も多いかと思えます。

信州駅伝サポート会では、多くの賛助会員の皆様方のご支援・ご協力を頂きまして、全国で活躍する駅伝選手、及びその指導者等に対しまして支援する事業を行ってまいります。今後共、よろしくごお願い申し上げます。



左より浦野、伊藤、佐藤校長、高見澤監督 佐久長聖高校



左より浦野、伊藤、小林校長、横打監督 長野東高校

2020 今年にかける

長野市立川中島中学校 陸上部 野澤重典

この3月から新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、部活動が大幅に制限され、実質的にはほとんど活動できない状況が3か月ほど続きました。その間、地区大会から全国大会まであらゆる競技会や記録会等が中止されてしまいました。そのたびに、次の大会、記録会の開催を期待して、目標を設定し直すことを繰り返してきました。今までも、そして、これからも経験することがないであろう厳しい時期でした。この間、部員たちは「がまん、がまん」の繰り返しで、「今は力を蓄える時期」「力を発揮する機会は必ずやってくる」と互いに言い聞かせて自主練習に取り組んできました。

この期間は、私にとっても考え方の大きな転換期だったように思います。陸上界に限らず、どんなスポーツの世界でも、かつては指導者が厳しく指導し、選手はそこから多くを学び、技術を伸ばし、精神面を成長させてきました。中学生の時期、そのような指導の重要性は認識しつつも、時代の流れもあり、そこにはある種の限界が指摘されています。加えてこのコロナによる自粛の期間です。できることと言えば、部員たちの自主練習を見つめ、時に彼らの話に耳を傾けるくらいのことでした。けれど、ひたすら自主練習に取り組む部員たちの姿を見ていると、「最終的に自分自身を鍛え

られるのは自分でしかない。」と強く感じるようになりました。

さて、コロナの影響を完全に排除できない中ながらも、本当の多くの皆様のご苦勞と情熱があって、徐々に競技が再開されるようになりました。「選手に活躍の機会を与えたい」という思いが多くの方で感じられました。しかし、残念ながら9月上旬、「ながの中学駅伝」、「全中駅伝」の中止が相次いで発表されました。全中駅伝の場で自分たちの走りを追求したいと強く願った選手たち、自分たちで自分たちのチームを鍛えてきた選手たち、そんな彼らがその熱い思いを表現する場が閉ざされた瞬間でした。この悲しみ、つらさ、落胆、怒りにも似た感覚をいっただこへ向けたらよいのやら、私自身、ほんとうにやりきれない気持ちでした。

しかし、そんなもやもやした気持ちに喝!を入れてくれたのは部員たちでした。切り替えようのない気持ちをいち早く切り替え、県中駅伝での「5回目の男女ペア優勝」の実現、さらに男子は「大会記録の更新」、女子は「10連覇の達成」と具体的な目標を設定し活動を再開しました。11月3日(祝・火)の予選会を突破し、11月22日(日)の県中駅伝で彼らの笑顔あふれる最高のパフォーマンスを期待しています。



令和元年度の全中駅伝 2区



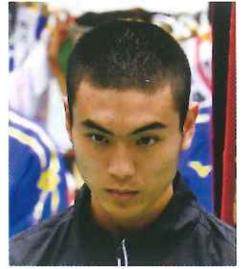
5区



練習風景



競技場

佐久長聖高等学校 駅伝部監督 **高見澤 勝**佐久長聖高等学校 駅伝部主将
鈴木 芽吹

私たち佐久長聖高校駅伝部は第70回全国高等学校駅伝競走大会において3位入賞という成績を収めることができました。これは、多くの方々のご支援、ご声援があったからこそその結果だと思っています。ありがとうございました。

今回は、2年ぶり3回目の優勝と2008年に先輩方が打ち立てた日本高校最高記録の2時間02分18秒を更新すること目標に大会に挑みました。結果的にその目標を達成できず悔しい思いでいっぱいになりましたが、それと同時に、1年間苦しさとともに乗り越えてきた23名の部員全員でつかんだ3位という結果に達成感を感じることができました。

目標に向けて努力してきた1年間や、今大会で味わった悔しさ、達成感など、佐久長聖高校駅伝部での経験は今後の人生において大きな財産になると思っています。

これからも佐久長聖高校駅伝部は全国で勝負するために苦しさや厳しさにも耐えて努力し続けていきますので、変わらぬご声援、ご支援の程よろしくお願ひします。

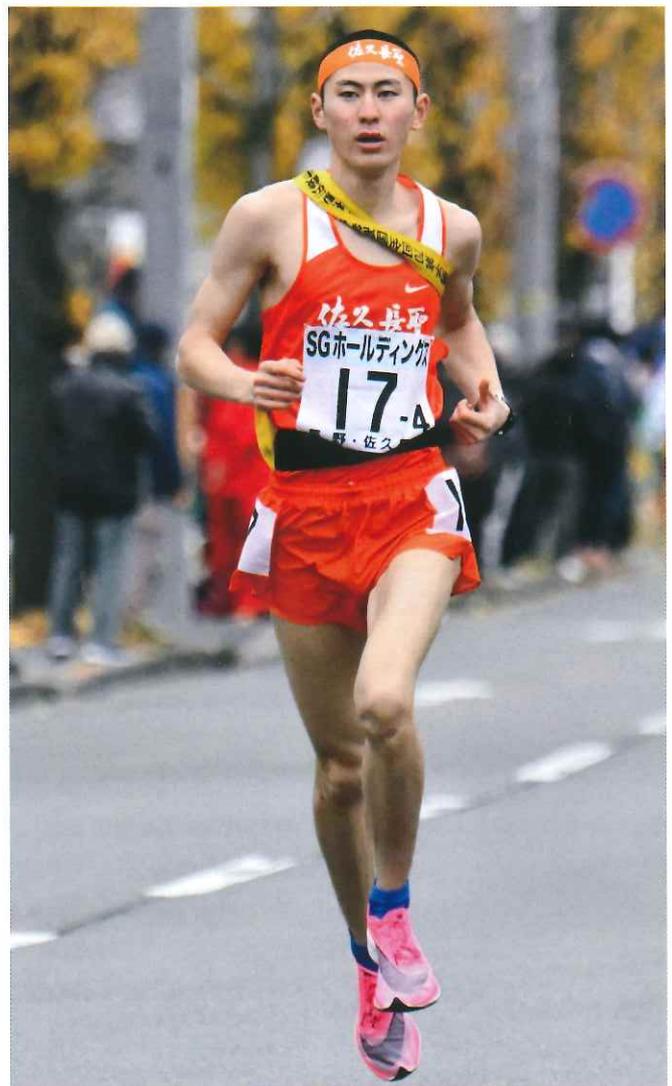
信州駅伝サポート会の皆様には、日頃より佐久長聖高校駅伝部へのご支援ご声援を賜り、誠にありがとうございます。おかげさまで、昨年度の全国高校駅伝では3位入賞を果たし、1月の全国都道府県対抗男子駅伝では優勝をすることができました。

冬の駅伝の良い流れを引き継ぎ、新チームの活動を楽しみにしていた矢先、新型コロナウイルスが世界的に広がり、ほとんどの大会が中止となってしまいました。例年、我々佐久長聖高校駅伝は、3月の伊那駅伝、5月からのインターハイ路線、7月から8月の夏合宿を経て、秋以降の駅伝シーズンに突入していく流れでした。しかし、それらが中止となり、今までに経験をしたことが無い流れで現在を迎えている状態です。ただ、この状況は我々だけではないと思っていますし、いつかはこの状況を抜け出せると信じ、今できることを全力で行っています。

このような状況になって特に心苦しいのが、小学生・中学生・高校生の最上級生が、納得した形でそれぞれのカテゴリーでの活動を終えることができないことです。「最上級生の今年こそは全国で勝負しよう」とか「最上級生になったので良い記録を残したい」などといった目標をたてていた選手たちは少なくないと思います。その思いを叶えてあげられないと思うと、私も悔しくてしかたありません。「次のステージで頑張ればいい」と簡単には言えませんが、悔しさがあるからこそ次のステージでその想いを晴らしてほしいと思っています。そして、これからも長く競技を続けてもらいたい、そう願っています。

また、このような状況で強く感じるのが、今まで普通に競技に取り組んでいたことが「当たり前ではない」ということです。だからこそ、競技ができることに感謝の気持ちを持って取り組むべきです。競技者だけではなく、指導者も含めて感謝の気持ちを忘れないよう取り組んでいけば、必ず良い結果に結びついたり、納得できる結果が出せるのではないのでしょうか。それは、競技力向上だけでなく、人間力の向上にもつながります。

私自身も改めて感謝の気持ちを持って指導に当たり、競技力の高い選手と共に人間力の高い選手を育て、この先でも活躍できる人材を社会に送り出したいと思います。



宇津野 篤選手 神奈川大学入学



3位入賞 佐久長聖高校

チーム長野 不屈の走りでV奪回

全国男子駅伝長野県チーム団長 浦野 義忠

天皇盃第25回全国都道府県対抗男子駅伝は1月19日広島市の平和記念公園前を発着点とするコースで競い、2時間17分11秒の大会新記録で3年振り8度目の優勝を飾ることができました。このように、全国最多の8度目の優勝を達成できたのは、会員の皆様方のご支援、ご声援の賜物と心から感謝申し上げます。

選手は、昨年10月台風19号で被災された県民に元気な走り、明るいニュースを届ける思いで走りました。大会前日、高見澤監督は、取材を受けた地元紙に次の記事が掲載されました。「2高校生欠場・代役が燃える」長野は5000m13分台の高校生2人を怪我で欠くが、監督は「代わりの選手はチャンスと燃えている。戦力ダウンではない」と強気だ。「4区・5区の高校生ではなく、6区で首位に立つ作戦に変更した」と。監督は冷静に選手個々の力量を分析し、コメントをしました。

レースは監督の読み通り、大会記録を上回るハイペースで4区木村、5区宇津野が二人で20秒短縮。6区吉岡は1位埼玉と16秒差。軽快な走りで、茨城・埼玉を抜き去り、8秒差をつけ中継。最終区中谷は、大会記録を1分32秒更新し後続の追い上げを寄せ付けず感慨のゴールでした。

高見澤監督をはじめ各コーチは「選手を気持ちよく走らせる」を念頭に指導している姿に「チーム長野」の心意気を強く感じました。第26回大会に向けまして、選手たちは新型コロナウイルス感染拡大により苦難に直面していますが、連覇・9度目の優勝を目指し、強い志を持って、難しい練習環境ではありますが、確実に競技力を向上させ「駅伝長野」に相応しいレースを心掛けたいと頑張っていました。

しかし、日本陸連では全国都道府県対抗駅伝は、コロナ感染症拡大のリスクが高い等の理由により、中止の決定をしました。悔しさはありますが、選手達は、有志育成、強い意志を堅持し、次の目標に向かい頑張っています。

信州駅伝サポート会の皆様には、一層のご協力、ご声援をよろしくお願い致します。

全国都道府県対抗 女子駅伝長野県チーム

駅伝部長 北島 正孝

信州駅伝サポート会会員の皆様には、都道府県対抗駅伝を初め、全国の各駅伝に出場する選手、チームに応援、ご支援を頂き、大変感謝しております。

皆様ご承知のとおり、監督が交代しました。玉城監督は、年度末で長野東高校を退職し、今年度7月より母校である日本体育大学の男子駅伝監督に就任し、後任に横打史雄先生が、長野東高校に着任し、タスキが引き継がれました。当然、都道府県対抗女子駅伝の監督も引継ぎますので、今後共よろしくお願ひ致します。

数年前まで苦戦して来た都道府県女子、上位でレース展開し、結果を出すには、どこが悪いのか？何が出来ないのか？玉城監督が率先して長年掛けて選手を育てて来ました。大学、実業団に入った選手にも目を向けたりして、現状の状態を築いてまいりました。勿論監督の下でコーチ、スタッフと信州駅伝サポート会や多くの方々の支えのお陰だと思っております。

今年の大会では、長野県チーム過去最高順位の四位に入賞する事が出来ました。しかしながら選手達は、誰一人として、喜びの顔や表情は無く、メダル獲得が出来なかった悔し涙を目にし、「長野県チームも強くなったなあ」と感じた瞬間でした。

来年の大会は、今年走った中学生(2年)が残り、高校、大学、一般と過去最強のメンバーで、このコロナ禍の中でトレーニングを続けてまいりました。しかし、先般日本陸連から中止の決定がされ、今日まで長野県チームに携わって来た選手、監督コーチの皆さんの落胆は大きかったと思います。

コロナ禍でこの様な時代になってしまいましたが、いつまでも続かない事を信じて、日頃のトレーニングをしっかりと積み、再来年の大会を目指して頑張ってくれと信じております。

最後になりましたが、信州駅伝サポート会の皆様にも今後共ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

長野東高校陸上部監督に「横打史雄」先生就任



長野東高校
陸上部監督
横打 史雄

4月より長野東高校に赴任し、陸上部の監督を仰せつかりました横打史雄と申します。

日頃は信州駅伝サポート会をはじめ多くの方々に長野東高校陸上競技部をご支援いただき、心より感謝申し上げます。

全国高校駅伝に13年連続で出場し、準優勝2回を含む4回の入賞を重ねるチームをまかせていただけることになり、身の引き締まる思いであります。

前監督の玉城良二先生は、人間力＝競技力と考え、基盤である日常生活からきめ細かい指導をされてこられました。また、生徒に自主自律を促し、多角的に物事を考えられる選手の育成を重んじておられました。先生のこれらの指導理念を引き継ぎ、新たなチームの歴史を築いていきたいと考えております。

卒業生には小田切亜希、佐々木文華、細田あい、溝口友己歩、和田有菜、萩谷楓、小林成美らがあり、本校卒業後も各カテゴリーで日本を代表する選手として活躍しています。長野県の長距離界のため、本校から引き続き全国トップ選手を輩出できるよう努めてまいります。

広島 都道府県対抗全国男子駅伝 観戦記 飯田市 北原 和子

駅伝サポート会が結成され、私もささやかながらこれに加えていただいた。昨2019年は京都の女子駅伝のツアーが計画されたので、わたしも参加かすることにした。こここのところアンカー区間で入賞をはずしていたが、細田選手の力走で6位に入賞し、それをこの目で見る事ができてほんとによかった。今年は広島の子に行くつもりで京都には行かなかったが、テレビで同じ細田選手のがんばりを見て、これをスタンドから見ればよかったと思った。メダル獲得を目指してビッグネームを相手に激走、1秒差で敗れて号泣したとのことである。

さて広島、ツアーも計画してくれたので申し込んだけれど、人数不足で中止となってしまった。でも私は当初の予定通りひとりだけでかけることにした。今全国のお城巡りをしているので、それも併せてやりたいと思っていたので。また、新幹線で往復するのは経済的にきついで、帰路は夜行バスとした。

前日1/18出発、安芸高田市の吉田郡山城を見学して広島に一泊、当日は午前中広島城を見学して、取材の申し込みのあった信毎中澤記者の指示に従ってJR宮島口駅に降り立った。中澤氏と落ち合い、以降は氏の指示に従ってきわめて有効に観戦することができた。

高校生区間は佐久長聖の健闘を支えてきたエース二人が欠場とのこと、苦戦が予想されていた。しかし1区越選手は先頭と7秒差でスタート、2区中学生小田切選手が4位、私の前を全国の名だたる選手の中で苦闘する春日選手が走り抜けていった。15位。ここでタブレットの画面を抱えたまま移動開始、JR、アストラムラインと、中澤氏の的確な指示で動いた。画像は高校生二人の反撃を伝える。4区で8位、5区で3位と、木村・宇津野選手の計12人抜きの後、6区中学生の吉岡選手の圧巻のトップ通過、ついに先頭に立った。それを受ける中谷選手に笑顔のなかったことが印象的だった。後ろに迫るビッグネームたちを退けることができるか、

本人にとっては苦しい、こちらにも手に汗握る展開である。設楽・一色・村山、なんというビッグネームだろう、でも中谷選手なら3位メダル獲得はしてくれるだろう、高鳴る胸を抑えつつ、移動中継車が一回目に通過しつつあるゴール地点に着いた。長野県応援団の中である誰もまだ優勝すると思っていないようだった。画像の中谷選手の表情が苦痛にゆがむ。あと3キロになったところ、中国新聞のカメラマンが高いところから「長野県の皆さん、ゴールしたら胴上げのところへ移動しますか。」と言った。え?と思ったのは私だけではない。「それは、優勝するってことか。」と言った人かいた。そしてゴール。人垣の間に膝を折って入って私も見届けることができた。

苦戦が予想されたけれど、終わってみれば優勝! 来てよかったとしみじみ思ったことだった。表彰式は晴れがましかった。緞帳が開くと入賞8チームが壇上であって、もちろん最前列は長野県チーム、全員にメダルが渡された。個人賞でも吉岡選手が区間新記録、優秀選手賞(ジュニアB)とのことだった。このあと祝勝会にも出させていただき、晴れかましくもほっとした表情の選手たちと接することができた。法被を着て物販を担当し、完売したと喜んでいた80代の女性たち、役職の方々はもちろん、多くの方々の方が長野県チームの健闘を支えているのを目の当たりにして、これも大きな感動。このような経験をさせていただいたサポート会伊藤様、信毎名古屋支社長中澤様に厚く御礼申し上げます。

この後2/15には天竜村梅花駅伝があり、あいにくの天気でしたが、殊勲の7人抜きを演じた木村選手をはじめ、県下の選手たちががんばっていました。楽しみにしていた春の高校伊那駅伝が中止になったのは残念ですが、このたびのコロナウィルスの事態を何とか乗り越え、来年度の駅伝が無事開催されますよう、今はただ祈るばかりです。(3/15記)

都道府県対抗女子駅伝応援ツアーに参加して 丸山 健志

1月11日～12日、京都で行われた都道府県対抗女子駅伝大会に駅伝サポート会主催の応援ツアーに参加させて頂きました。このツアーは一言で素晴らしいです。半年以上過ぎた今でも鮮明に記憶に残っています。

土曜日の早朝、長野駅からバスで京都へ向かい、途中数か所でツアー参加者を乗せながらです。道中、駅伝大好き仲間同士、話も弾みます。バスも快適、同行のJTB添乗員さんは元名城大学女子駅伝部のペースメーカーされていたとか。あつという間に京都に到着、今回のツアーの目玉の1つの市内観光です。天気も良く銀閣寺、清水寺観光も楽しめました。

ホテルも駅に近く綺麗で近代的、大浴場もあり満足です。夜は懇親会を行い、参加者同士、親睦が深まり、明日の駅伝応援に向け盛り上がりました。

当日は競技場スタンドから各区分ごとに選手に声援を送り、スタンド応援と途中応援に分かれて応援しました。私は往路、復路の中学区間を応援しました。共に先頭と約10秒差の3位争いの好位置での堂々とした力走に応援に力が入ります。駅伝も最終区

10kに入り応援ツアー参加者も競技場スタンドに集結、3位争いをしている長野アンカー細田選手を待ちます、1位の京都が競技場に入ると約1分後に東京3位、長野4位で戻ってきました。その差は約20mです。途中の映像では東京との差はかなり開いていて抜き返すに無理かと思いましたがどんどん追いついていきます。ゴール直前には1秒差まで追いつきました。諦めない長野の存在を日本中に示してくれました。この頑張りが次回の目標、初の3位以内、メダル獲得につながるでしょう。

このツアーは選手にも会えますし、選手と一緒に走っているような一体感は格別です。

来年は初の3位以内を取ると思います、多くの参加者で応援していただき駅伝王国長野の一員になってください。メダル獲得の景色をみんなで堪能しましょう。

最後に私も最近では駅伝スタッフとして参加していますが、今回は応援者の立場で長野チームを見ました。大変、良い経験になりました。今後も皆様に愛される元気を与えられる選手を育て、強い長野の役に立ちたいと思います。ありがとうございました。



小学生選手の活躍

駒ヶ根中沢RC
片和 小春



私たち駒ヶ根中沢RCは、昨年7月に行われた白馬スノーハーブクロスカントリー大会で県内1位となり、12月の日清食品カップ全国小学生クロスカントリーリレー研修大会への出場を決めました。

私たちは、「8位入賞」という高い目標を立て辛い練習もチームの仲間とともにがんばりました。それと同時に、10月の台風で被害にあわれた方々を元気づけられるような走り最後まであきらめないと誓いました。

大会前日の研修会では、ハードル日本記録保持者の寺田明日香選手のお話を聞いたり、県外のチームの人と友達になれて特別な体験ができました。

私は、一区を走りました。レースの流れを決める大事な区間を走るのとはとても緊張しました。スタート時、前に飛び出せず先頭集団から離されてしまいましたが、ラストでは力をふりしぼり何人か抜かせて順位を上げることができました。個人の記録は5分29秒で満足できる記録ではありませんでしたが、その時の精一杯の力は出せました。総合順位は28位で目標の8位入賞には遠く、とても悔しかったです。

全国には速い人がいっぱいいることがわかり、もっともっと速くなりたいと思いました。この経験を忘れず中学に行っても陸上をがんばりたいです。

この大会がなくなってしまうのは残念ですが、最後の大会に出場できてよかったです。

たくさんの方々に応援いただき、本当にありがとうございました。



「駅伝に思う」 宮田中学校 北村 育代

東京オリンピックを1年後に控えた2019年の夏、ニュースや新聞でスポーツの話題が盛んに取り上げられる中、我がチームは秋の中学駅伝に向けて練習を開始しました。今年は「県大会3位入賞」を目標に、練習や学校生活に精一杯取り組もうと気持ちを一つにしました。

今年の駅伝のメンバーは、3年生の小田切幹太君を中心に、駅伝に向かう気持ちが強く、お互いに切磋琢磨しながら、黙々と走る8人でした。3年生が練習に全力で取り組む姿を見せ、下級生に励ましの言葉をかけながらチームを引っ張る。その3年生に下級生が必死についていこうと頑張る。そんな毎日の積み重ねが強いチームを作り上げ、全国大会への切符をいただけた大きな要因だと思います。

保護者の皆さんに健康管理や送迎をお願いし、ロードを中心に距離を、校舎周りや公園でスピード練習を行いました。本当に多くの皆様にチーム宮田の生徒の頑張りを励まし支えていただきながらここまでくることが出来たと思います。

全国駅伝大会出場という経験を大きな自信に、生徒たちが何事にも向上心をもって取り組み活躍できることを願っています。



宮田村中学校 主将 3年2組
小田切 幹太

僕たち陸上部男子駅伝チームがのびのびと全国の舞台上で走れるように、ご支援をいただきありがとうございました。

全国大会で僕たちは、これからの人生につながる大きな経験をする事が出来ました。チームとしては目標の達成はできずに悔しい結果に終わってしまいましたが、皆さんの支えがあったからこそチーム宮田として取り組めたと思います。

チーム宮田がさらに上の舞台に進めるように、これからも応援よろしくお願いします。

お悔やみ NPO法人信州駅伝サポート会ご加入頂き、ご支援、ご協力を頂き、長野県の駅伝チームに心を寄せて頂いていた方々のご逝去にご冥福をお祈りすると共に心より感謝申し上げます。 合掌

中條延太郎 (佐久市) 令和元年7月21日 83歳	船坂昭夫 (京都市) 平成30年2月13日 77歳	伊藤治幸 (千葉県) 令和2年2月17日 85歳
------------------------------	------------------------------	-----------------------------

編集後記

2020年も夏が過ぎ駅伝シーズンに向かっていきます。今年はコロナウイルスに振り回され、駅伝もどうなるかわからない状況です。このような状況下の中、選手は大変な苦勞と不安で一杯だと思います。苦境の今、「駅伝王国-長野」諦めない事が大切です。どうぞサポート会員様の支援が大きな応援になります。チーム長野で頑張ります。お願い申し上げます。 丸山 健志